

氏名	富 永 進
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1577号
学位授与の日付	平成9年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Presence of Human Papillomavirus Type 6f in Tonsillar Condyloma Acuminatum and Clinically Normal Tonsillar Mucosa (扁桃尖圭コンジローマ及び臨床的正常扁桃粘膜におけるヒトパピロマ ウイルス6f型の存在)
論文審査委員	教授 新居 志郎 教授 小熊 恵二 教授 松尾 信彦

### 学位論文内容の要旨

口腔咽頭乳頭腫におけるヒトパピローマウイルス(HPV)の関与を検討するため、Southern Blot Hybridization (SBH)法、PCR法を用いてHPVの検索を行った。HPV6型の全長をプローブとして用いたSBH法による検討では、HPVが尖圭コンジローマより検出されたが、扁平乳頭腫では検出されなかった。検出されたHPVは制限酵素による切断パターンより6f型と同定された。更にPCR法により尖圭コンジローマ及び其周辺の臨床的正常扁桃粘膜からはHPV6型が検出されたが、唾液、粘膜擦過サンプルからは検出されなかった。

高感度なPCR法によってのみ検出される正常扁桃粘膜における微量のHPVの存在は潜在感染を意味しているものと推測された。しかし唾液及び粘膜擦過サンプルからはHPVが検出されなかったことから、これらの検体を用いたウイルス学的術前診断の可能性についてはさらなる検討が必要であると考えられた。HPVが検出されなかった口腔乳頭腫の発生原因については現在のところ不祥である。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、口腔咽頭乳頭腫におけるヒトパピローマウイルス(HPV)の関与を検討することを目的として、Southern Blot Hybridization(SBH)法やPCR法を用いて8例の患者材料についてHPVの検索を行ったものである。

HPV6型の全長をプローブとしたSBH法により、1例の尖圭コンジローマ材料から6型を検出したが、扁平乳頭腫7例からは検出しなかった。後者7例については11型についても検出をみなかった。PCR法によって、尖圭コンジローマ及びその周辺部の臨床的正常扁桃粘膜からはHPV6型を検出したが、唾液や粘膜擦過材料からは検出されなかった。

以上の成績は、口腔咽頭乳頭腫の治療指針の考察に当たり、有意義な知見を提出したものと認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。